

# 流域治水の目標設定

## 目標

どんな洪水が発生しても「犠牲者ゼロ」となる状態を2040年頃までに目指す

## 取組方針

### 全員参加

流域内の住民、民間企業、NGO、行政等のあらゆる主体が、

### 相互補完

地域の被害特性の分析に基づき、「氾濫を減らす」、「備えて住む」、「安全に逃げる」という流域治水の3方策の長所を活かして効果的に補完しあい、

### 継続実施

気候変動に伴い洪水規模の増大が続くと見込まれる2040年頃まで、諦めずに取り組み続けることにより、

想定最大規模の洪水に対して、

- ① 逃げ遅れた場合であっても被害に遭わないよう、「命の危険がある場所・建物に住む人」をできるだけ減らす

#### 「命の危険がある場所・建物に住む人」とは

- 氾濫流により倒壊のおそれのある家屋に住む人
- 最上階の居室が浸水する家屋に住む人
- 病院・福祉施設等で浸水する階のベッドで暮らしている人

- ② 解消しきれない「命の危険がある人」には、「安全な避難場所・避難路」を確保する

#### 「安全な避難場所・避難路」とは

- 倒壊・浸水しない避難場所
- 浸水しない避難路